

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376200172		
法人名	平成フードサプライ株式会社		
事業所名	グループホーム稲武の家		
所在地	豊田市黒田町一色310番地		
自己評価作成日	平成23年 9月 15日	評価結果申出受理日	平成23年12月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成23年10月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>緑豊かな景色の中で、ゆったりと心穏やかな生活ができる。 利用者様、ご家族の立場に立ち、関わりを大切に、信頼関係を築いていく。 田舎なりの良さを活かし、敷地内の畑で収穫された野菜を使用したメニューを提供している。 昔からの風習、習慣を大切にし、季節ごとに行事している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員は利用者の意思を尊重して、行動を阻止しないケアに努めている。毎月項目ごとに発表する場を設けることによって、全職員が研修に対しての意識が高まっている。また、職員会議をすることにより話し合う機会が増えて、ケアの統一ができ、サービスの向上にもつながっている。書類面も記録に残すことを習慣づけるようになった。ボランティアが増えて、地域の人もホームに来やすい雰囲気となっている。家族とも家族会を開催することにより、信頼関係が築かれている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい		

いざ有頃口 . 40)

4. ほとんどいない

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの玄関に掲げてあり、職員は各自で理念を確認し、実践に繋げている。また、昨年の外部評価の結果を踏まえて、職員会議で話し合う機会を持ち、実践に繋げている。	職員会議で理念についても話し合い、全員で周知している。職員は利用者の気持ちに沿って行動できるようになった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方々の慰問が多々あり、地域とのつながりが年々深くなって来ている。今後、地域のお祭りやイベントもあり、参加予定がある。	社会福祉協議会からの紹介によるボランティア体験で中学生が来訪したり、他に定期的なボランティアが来ることが多くなった。	地元の老人クラブの人達に来てもらう機会ができるように働きかけているので、実現が望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者のご家族との対応、行事等で、事業所の理解をして下さる方も多く、地域の方々に紹介して頂けるケースもあり、認知症への理解も深まっていただけだと思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月、地域包括支援センターより職員が参加しており、利用者が参加できるイベント等の情報等、サービスの向上に活かすことができている。	地域包括支援センターの行事に出かけたり、ボランティアの紹介をしてもらったり、地域包括支援センターとのつながりがより深くなっている。	今後は運営推進会議に職員も交代で参加することを望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター等、常に情報交換を行い、居室に空きが出た時の相談、受け入れなど協力しあっている。また、センターの、温泉利用等で協力して頂き、今後利用を考えている。	常に介護のことでわからないことは、地域包括支援センター職員に質問をして教えてもらっている。地域包括支援センターより「社会福祉協議会」への入会の誘いも受けている。市町村の職員とはわからないことはすぐに相談できる関係である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ネット研修や勉強会にて確認を行い、皆が同じケアが行えるよう努め、防止に取り組んでいる。また、現在は日中玄関は解放されており、利用者もなるべく自由にできることが出来る様見守っている。	法人内のネット研修により、レポートを提出するなど、身体拘束について全員で共有できている。また、ユニット間の鍵も空けることにより職員間の協力体制も強化してきた。	
7		○虐待の防止の徹底			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で、虐待について学ぶ時間をもうけており、本部より発行される週1回の朝礼にも多々通知があるため、職員は常に意識するようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行っていない。 自立支援や青年後見制度については当てはまらない部分がある為。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に管理者が、十分な説明を行い、途中改訂等で報告がある場合は、手紙で報告をし、承認を頂き、疑問にはいつでも答えるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族への時々の手紙、来館時には、要望等を訪ねる様にしているが、ほとんど無いのが現状です。苦情等があれば、記録に残し、検討していく。	家族へは利用者ごとの手紙を2ヶ月に1回出している。何かあればすぐに報告しているので、家族からは安心して任せている様子が窺える。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議に、代表者、管理者も出席しており、職員の要望、提案を伝える事が出来る。	月に1回の職員会議では、各館の問題点を話し合い全員で周知している。欠席の職員には文書で回覧している。運営推進会議にはエリアの事務長も出席している。その場で職員との情報の共有ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の推進、それに伴う手当など、各自が向上心を持って働ける環境となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に関しては定期的な社内研修の実施や、各自、自らの研修受講を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社内での交流はあるが社外との交流はもっていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。 本人の要望には全てに耳を傾ける訳にはいかない面もあるが本人が安心して生活できる為のサービスの確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。 ご家族の要望等には極力耳を傾け、常に信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。 今すぐ必要としているケアから始め、変化に伴いその都度話し合いながら行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全員とまでは行かないが、利用者さんによっては役割分担のようなものがある。お手伝いの中で助け合い生活している部分がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の中にはご家族をととも頼りにしてみえる方もいる。利用者さんに対して職員からだけでなく、時にはご家族からもお話しして頂き共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出、外泊など自由であり、今までの関係が途切れる事が無いよう努めている。また、地元や、地元周辺の方々の訪問、ボランティア活動の受け入れなど顔馴染みの方たちとの交流もある。	入居前のかかりつけ医への受診には家族が付き添っている。また、日帰りで利用者連れ出す家族もいる。外泊が少なくなった分、地元の人達やボランティアの人との新しい馴染みの関係が出来てきた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル席の配置や、生活リハビリ、レクレーションなど通して利用者さん同士が関わり合い、時には支え合える様に、職員が利用者を一人一人把握し、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後はご家族と連絡を取ることはないが、本人が移動した施設等には面会に行くことがある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの状況を把握し、不穏な時にはその都度話を聞き、意向を把握している。また、問題点は、カンファレンス等で、検討して改善に努めている。	職員は観察力の技量が上がり、ちょっとした表情や行動を見て察することが増えている。それを、職員会議やミーティングで情報を共有しており、利用者の思いや要望の把握の統一を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報収集し、フェイスシート、アセスメントシートとし、カルテに綴じてあり、職員は把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の状態を把握した上で、残存機能を活用し、引き出すサービスを提供している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を開催し、本人、家族の希望を反映した介護計画を、検討し、作成している。 また、3ヶ月ごとにモニタリングを実施し、継続、有無を検討している。	モニタリングは、利用者、家族、職員と話し合い、医師には書面で意見をもらい検討して評価している。それを介護計画に反映して現状に即した介護計画となっている。また、状態変化がある場合は随時の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には、食事、バイタル、日中・夜間の様子を記録している。利用者に変化が見られたときには申し送り帳に詳しく記入して状況の把握をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当施設は通所、ショートステイ等のサービスは行っていない。ニーズに対して当ホームで可能な限りの支援はしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	桜や紅葉の時期にはドライブに出かけたり、暖かい日には散歩しながら四季の移り変わりを感じて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	総合病院と、地元医院との連携が確率されている。往診のお願い出来るドクターもおおし、気軽に相談出来、適切な医療も受けられる。	利用者の半数は入居前のかかりつけ医に通院している。また、協力医が月二回往診しており、かかりつけ医と協力医の連携はホーム職員が仲介しており、本人や家族が納得の得られる適切な医療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、頻回に管理者が見舞うようにしており、病院内、相談員と常に連絡を取り、状況を把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	他の号館で、本年度に入り急激な低下があった利用者に対し、本人、家族の強い希望があり、またかかりつけの医師の協力も得られ、終末期の対応を実施した方があった。今後においても、家族、医師と検討の上、取り組んでいく予定である。	今年は看取りを経験している。職員は家族や主治医の協力の下、何度も話し合いを重ねホームのできる精一杯のケアサービスを行っている。また、上司より、ターミナルケアの研修もあり、職員は不安を感じることもなく取り組むことができた。	利用者により、重度化や終末期の対応の仕方は違いがある。今回の看取りの経験を書面に残し今後のケアサービスに反映されることを望んでいる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修等で、学んだり、消防訓練等で対応の訓練を実施し、身に付けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の避難場所の確保が出来ており、災害の場合には地元の協力体制が出来ている。	夜間想定と昼間で2回避難訓練を行っている。共に自主訓練となっているが、利用者も参加している。	あつてはならないことと思うが、もしものことを考えて、スムーズに行動できるように、定期的に避難訓練をされる回数を増やしてはどうか検討されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーを損ねないように職員全員が意識し、記録や個人情報も外部に漏らさないよう徹底している。	職員は利用者の居室に入る時はノックをしたり、夜間の巡視にはそっと見守りをするなどプライバシーを尊重している。また、言葉使いは丁寧である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、常に声掛けし、本人が決定したり、思いを表せるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や趣味など、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら声掛けし、利用者の気持ちを尊重するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族対応で美容院に行かれる方や、地元の美容師さんにきて頂いて、好みのカットにして頂く支援をしている。また季節に合った服装が出来るように洋服の整頓等の支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年に一度、嗜好調査を行い、好みの食事を提供する支援や、食事作りが出来る方、食器拭きを一緒に行う事が出来る支援をしている。	職員が献立を考えているが、利用者の希望を盛り込んだ献立となっており、栄養バランスにも配慮が見られる。また、食べ易く食材も切っており、利用者が箸で食べられるように工夫している。また、四季を感じる行事食もある。後かたづけなど、利用者の力量に応じて行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おやつ、食事には必ず水分を提供し、食事でも手作りでバランスの摂れた物を提供している。また食事形態も、その人に会うように工夫している。 (きざみ、薄味)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ、支援を実施し、義歯の方は、週1回のポリデント洗浄も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一日を通して、定期的に声掛けしたり、誘導し排泄を促している。	自立に向けて昼間はトイレに誘導している。本人の生活リズムに添った誘導に努めているが、特に食事前やおやつ前には気をつけてトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便の有無を確認し、必要に応じて服薬コントロールしている。また、体操時には下腹部のマッサージを行ったり、おやつにヨーグルトを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は決まっているが、一日おきに入って頂き、仲の良い利用者さんは一緒に入ったり、入浴拒否の方は時間をおき再度声掛けして入って頂く。	入浴は午後からとなっており、週3回は入浴している。入浴は殆どの方が好きだが、時々入浴を嫌がる人はタイミングを見計らい2~3回声をかけ納得して入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態観察をし、居室で休んで頂く支援もするが、なるべく日中は活動して頂き、夜の安眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬を確認し目的、用法等について理解して、症状の変化があった時には、詳細を残すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが生活の中で出来るお手伝い(洗濯物干し、たたみ、食器拭き)等して頂いている。 花を育てる為の準備、野菜を収穫する為の準備を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春・秋と行事を設けて外出する機会を作っている。天気の良い日は、散歩や日光浴をしたり、一緒に買い物に出かけて気分転換を図ったりすることもある。	ホームの玄関前が広く、そこをゆっくり散歩する人、週1回買い物に職員と一緒に出かける人や、ホーム近隣を散歩する人もいる。他に家族と月1回の通院の時に外食や買い物をする人もいる。春は花見、秋はもみじ狩りなど行事もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設で預かっている。店が遠い為、職員が代行で買い物を行う事が多いが、希望があれば職員と一緒に出かけ、買い物ができる支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、職員が間に入り電話を掛けたり、本人に繋げたりしている。手紙も本人宛の物は渡したり、書いた手紙は預かって、代行で提出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは毎日掃除を行い、清潔で安全快適に過ごして頂けるよう努めている。また、季節に応じて花を飾ったり、利用者の作った季節感のある貼り絵やぬりえ等を飾っている。	共有スペースのテレビの前には堀コタツとソファがあり、そこで寛ぐ人やテーブルに座り友人と話している人、玄関のベンチで寛いでいる人など思い思いに過しているのが伺えた。コスモスの貼り絵や月見団子の飾りもあり季節を感じることができる。トイレ、浴室も清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	できるだけ気の合う方同士が同じテーブルになるように考えたり、ソファに座る位置等、好きに選んで頂けるような支援をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団、タンス等、自宅で使用していた物を持参して頂き、住み慣れた環境に近づけるよう努めている。	全体にスッキリした居室となっているが、利用者の個性はでており、居心地よい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれに合った家具(ベッドなど)の配置にし、できるだけ自立した生活が送れるように支援している。居室内も安全に過ごせるように環境整備に努めている。		